

[企業情報](#) > [サステナビリティレポート2005](#) > [トップコミットメント&ハイライト](#) > [CSRとパブリック](#)

## トップコミットメント&ハイライト CSRとパブリック



### CSRと良い社会

企業は何のためにあるのか。この問いに対する私の答えは、「企業は社会の役に立つためにある、より良い社会作りには貢献するためにある」というものです。企業は事業やそのプロセス、そして、事業以外の取り組みなど、さまざまな形で社会の役に立つことができる存在であり、それを真摯に実践することが企業の社会に対する責任(CSR)の本質です。

しかし、企業が個々にCSRを実践すればそれだけで“良い社会”を作るという目的を達することができるのか、と問われればその答えはNoでしょう。環境問題を例に考えても、企業だけでなく、さまざまな組織や市民一人ひとりがそれぞれの社会に対する責任を認識し実践しなければ、真に良い社会を築くことはできません。

### パブリックづくりへの参画

最近、パブリック(公共)という言葉があらためて注目されつつあります。ここでいうパブリックとはみんなにとって大切なもの、という意味です。戦後の日本の社会モデルは、個人や企業は私欲を追及し、パブリックなものもっぱら官が担う、やや極端な表現をお許しただけ、パブリックを官が独占するというものでした。

しかし、もはやパブリックを官に任せればよく、企業や個人は関係ないとは言いきれない時代であり、しかも、“官から民へ”の流れの中でその傾向はますます強まりつつあります。そうした中で求められていることは、官、企業、NPOや市民を含め、みんなでパブリックを担う新しい社会モデルの構築です。

### サステナビリティレポートの役割

これから企業に求められることのひとつは、このようなパブリックをみんなが担うモデル作りに自ら参画することです。そして、その志と結果を広く社会にお伝えすることがサステナビリティレポートの役割です。しかし、さらに重要なことは、レポートをきっかけに、読み手にも一緒にモデルに参画していただき、環境に良い商品を作る企業とそれを選ぶ消費者、社会貢献の場を提供する企業とそれに参画する市民など、パブリックを担うつながりを築いていくことです。

このようなつながりが広がり深まっていくことが、より良い社会を作る鍵であり、同時に個々の企業のCSRを本当に社会の役に立つものにする鍵だと思います。やや不遜な表現かもしれませんが、当レポートがそのひとつのきっかけとなれば幸いです。